SHARP

太陽電池モジュール
パワーコンディショナ
エコキュート
マルチエネルギーモニタ JH-RWL4

本書は下記エコキュートシステム形式の取扱説明書（追補版）です。
WX-SB37F、WX-SB46F に対しての、違いについて記載しています。
マルチエネルギーモニタ（JH-RWL4）同梱の取扱説明書と併せてご確認ください。

システム形式

WX-SB37FS … 370L 2缶式 フルオートタイプ
WX-SB46FS … 460L 2缶式 フルオートタイプ

ソーラー・エコキュート

取扱説明書
（追補版）

お買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ご使用の前に、本編の「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。
この取扱説明書（追補版）および別冊の「取扱説明書」は保証書とともに、いつでも見ることができる所に必ず保管してください。

エコキュートの取扱いについて

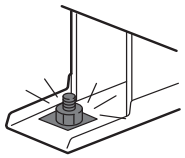
エコキュートの据付時・移設時・修理時のご注意

⚠ 注意

確認

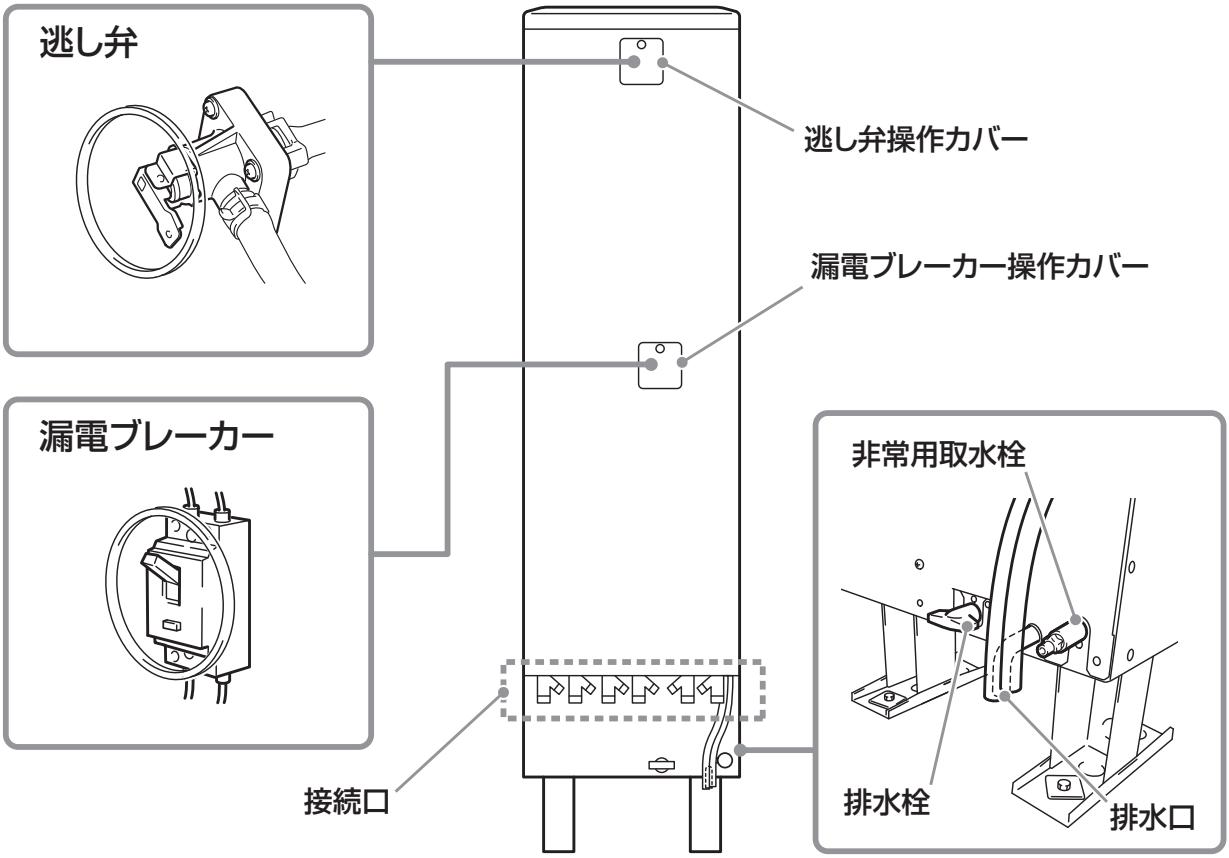
●貯湯ユニット脚部がアンカーボルトおよび角ワッシャーで固定されているか確認する

すべての脚が角ワッシャーを併用してアンカーボルトで固定されていることと、前脚が脚部前方の穴で固定されており、後脚が脚部後方の穴で固定されていることを確認してください。



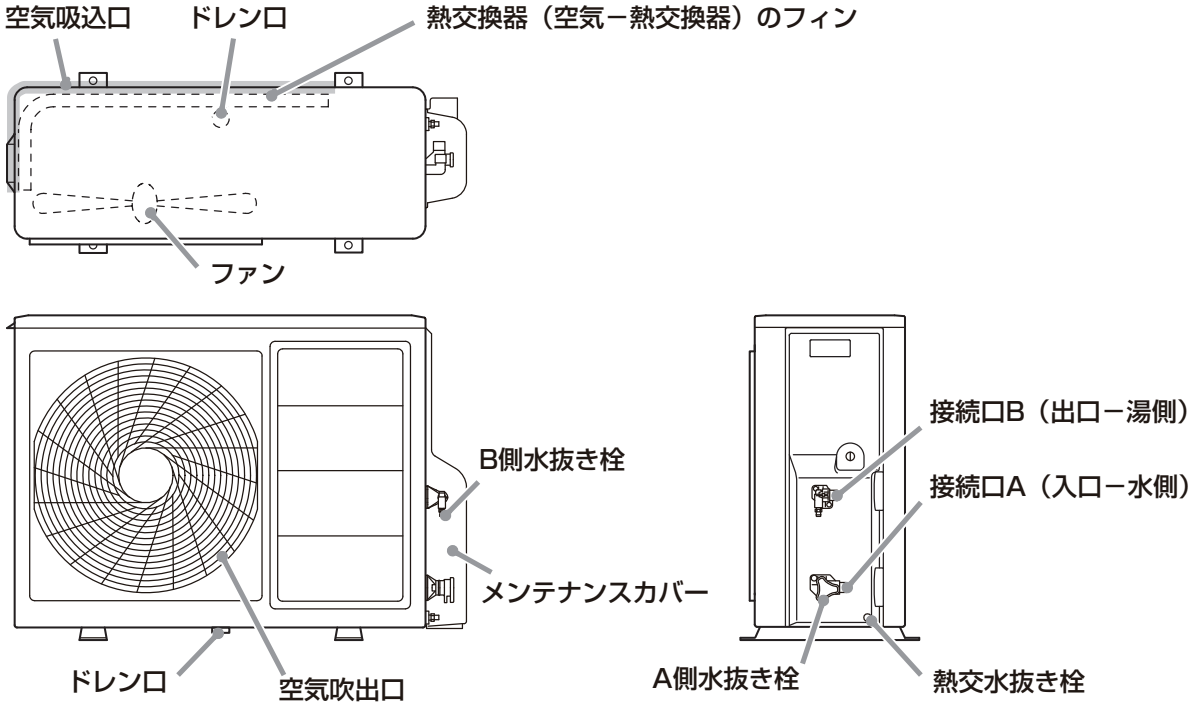
製品構成と各部の名前

貯湯ユニット



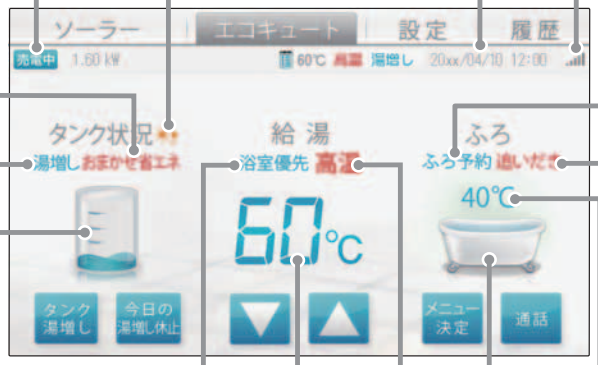
（図は370Lタイプで説明しています）

ヒートポンプユニット



エコキュートトップ画面の詳細説明

○表示部は説明のため全点灯状態にしてあります。



ソーラー売買電力表示
（☞本編30ページ）
ソーラーの売電/買電の状態とその電力を表示します。

運転モード表示
（☞本編62ページ）
エコキュートの運転モードを表示します。
「おまかせ」、
「おまかせ省エネ」、
「使いきり」、
「満タン」の４通り

湯増し表示
（☞本編44ページ）
ヒートポンプユニットの沸き上げ運転中に表示します。

タンクアイコン
（☞本編57ページ）
貯湯タンク内のお湯の量を表示します。

浴室優先表示（☞本編42ページ）
浴室リモコンに給湯温度変更の優先権がある場合に表示します。

給湯温度表示
（☞本編42ページ）
給湯の設定温度を表示します。

サマーモードアイコン（☞本編32ページ）
サマーモード設定時に表示します。

現在日時

電波強度アイコン
電界強度を5段階表示します。
有線接続時には非表示となります。

ふろ予約表示
（☞本編67～68ページ）
ふろ予約時に表示します。

ふろ状態表示
ふろ保温中は「保温」、湯張り中には「湯張り」、追いだき中は「追いだき」を点灯表示します。

ふろ温度表示

ふろアイコン
ふろ予約中、湯張り、追いだき、保温時に表示します。

高温表示（☞本編42ページ）
設定温度が60℃になると表示します。

貯湯量表示（約50℃以上のお湯の量）		（点滅）					
貯湯量（目安）	370L タイプ	30L未満	30L以上	80L以上	130L以上	175L以上	230L以上
	460L タイプ					200L以上	270L以上

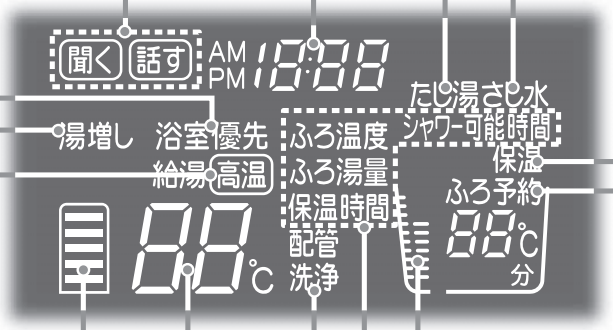
メモ

- タンクアイコンにタッチすると、タンク内の残り湯を
  - ・ シャワー ○○分
  - ・ 浴槽 ○○杯分

  で表示します。（☞本編 66 ページ）
- 湯はり中にふろアイコンにタッチすると湯はり完了までの時間の目安を表示します。
  - ・ 設置直後はマイコン学習期間（約 1 週間）のため 0 分表示となります。
  - ・ 残り湯がふろ循環口より上にあるときは非表示となります。（☞本編 48 ページ）

浴室リモコン

○表示部は説明のため全点灯状態にしてあります。



時刻表示
現在時刻を表示します。

通話中状態表示
（☞本編58ページ）
通話中の状態を表示します。

浴室優先表示
（☞本編43ページ）
浴室リモコンに給湯温度変更の優先権があるときに表示します。

湯増し表示
（☞本編44ページ）
ヒートポンプユニットの沸き上げ運転中に表示します。

高温表示
（☞本編43ページ）
給湯設定温度が60℃のときに表示します。

貯湯量表示
貯湯タンク内のお湯の量の目安を表示します。

給湯温度表示（☞本編43ページ）
給湯の設定温度を表示します。

配管洗浄表示（☞本編152、154ページ）
配管洗浄中に表示します。

たし湯表示
（☞本編56ページ）
たし湯中に表示します。

さし水表示
（☞本編55ページ）
さし水中に表示します。

保温表示
ふろ保温中に表示します。

ふろ予約表示
（☞本編67ページ）
ふろ予約中に表示します。

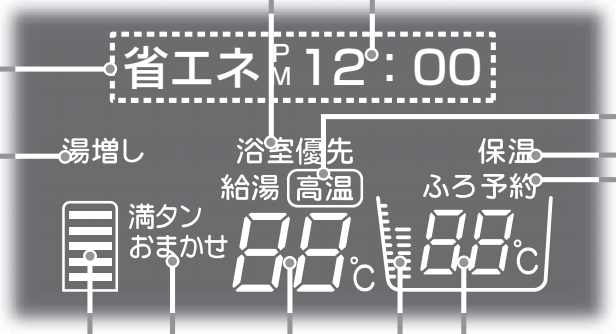
ふろ注湯表示
（☞本編49ページ）
おふろに注湯しているときは、ふろ注湯表示バーが順番に点灯します。
追いだき、高温さし湯、配管洗浄中に点滅します。

ふろ温度
ふろ湯量
保温時間
シャワー可能時間
（☞本編61ページ）
各設定値を表示します。
シャワー可能時間を表示します。

貯湯量表示（約50℃以上のお湯の量）		（点滅）					
貯湯量（目安）	370L タイプ	30L未満	30L以上	80L以上	130L以上	175L以上	230L以上
	460L タイプ					200L以上	270L以上

増設リモコン（別売部品）

○表示部は説明のため全点灯状態にしてあります。
（ただし、現在時刻表示部は一部点灯状態です。）



浴室優先表示（☞本編42～43ページ）
浴室リモコンに給湯温度変更の優先権があるときに表示します。

時刻表示
現在時刻を表示します。

各種表示
次の項目を表示します。
・運転モード
・メニュー項目
・ナビモード項目
・オプション設定項目
・休止日数
・通話中の状態など

高温表示（☞本編42～43ページ）
給湯設定温度が60℃のときに表示します。

保温表示
ふろ保温中に表示します。

湯増し表示（☞本編60ページ）
ヒートポンプユニットの沸上げ運転中に表示します。

ふろ予約表示（☞本編67ページ）
ふろ予約中に表示します。

ふろ温度表示
ふろ設定温度を表示します。

貯湯量表示
貯湯タンク内のお湯の量の目安を表示します。

ふろ注湯表示
おふろに注湯しているときは、ふろ注湯表示バーが順番に点灯します。

運転モード表示（☞本編62ページ）
エコキュートの運転モードを表示します。
「おまかせ」
「おまかせ省エネ」
「使いきり」
「満タン」の4通り

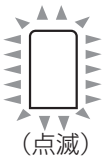
給湯温度表示（☞本編60ページ）
給湯の設定温度を表示します。

貯湯量表示（約50℃以上のお湯の量）		（点滅）					
貯湯量（目安）	370Lタイプ	30L未満	30L以上	80L以上	130L以上	175L以上	230L以上
	460Lタイプ					200L以上	270L以上

貯湯量表示について

- 貯湯量表示は、貯湯タンクの残湯量を目安で次のように表示しています。
- 貯湯タンクの残湯量が少ないときは[タンク湯増し]を押して貯湯量を確保してください。
- 貯湯量が少なくなると、おふろの機能が一部制限される場合があります。

ふろ運転機能の制限と貯湯量表示の関係（目安）

貯湯量表示（約 50℃以上のお湯の量）	マルチエネルギーモニタ	（点滅）					
	浴室リモコン	 （点滅）					
貯湯量（目安）	370L タイプ	30L 未満※1	30L 以上	80L 以上	130L 以上	175L 以上	230L 以上
	460L タイプ					200L 以上	270L 以上
ふろ自動		できません		できます（できない場合があります ※2）			
追いだき		できません	できます（途中で終了する場合があります ※3）				
高温さし湯（追いだきスイッチ 3 秒以上長押し）		できません	できます				
たし湯		できません	できます				

※ 1 「ピピピピッ」と警告音でおしらせします。
※ 2 バー表示がある場合でも、貯湯温度によっては運転に必要な貯湯量が不足する場合があります。
この場合はふろ自動運転はできないことがあります。また、途中で終了する場合があります。
※ 3 追いだき途中に給湯などを使用すると、貯湯量が減り自動で終了することがあります。

メモ

- 貯湯量表示は、約 50℃以上のお湯の量を段階的に示しています。運転モードを切り換えるとバーの数が変わることがあります。実際の使用可能湯量（目安）は、ナビモードで確認してください。（☞本編 65 ～ 66 ページ）
使用可能湯量は（目安）は、エコキュートトップ画面で、タンクアイコンをタッチすることでも確認できます。
- お湯を使用しなくても、追いだきやふろ自動保温により貯湯タンク内のお湯の温度が低下すると、貯湯量表示が減ります。また、お湯の温度は、途中の配管からの放熱や時間の経過による放熱のため低下し、貯湯量表示が減ることがあります。（外気温度や風の影響にもよりますが、朝から夕方（半日）までの間に約 5℃～ 10℃程度低下します。）※お湯が漏れているわけではありません。
- 外泊などによって 1 日以上お湯を使用されなかったときは、貯湯タンク内のお湯の温度が低下しているので、いつもより早めに貯湯量表示が減少することがあります。
- お湯の使用量が少ないときは、満タンまで沸上げない場合があります。

湯切れをしないために

●湯はりなどで多量にお湯を使用されるときは、使用される前に[メニュー決定]でナビモードを選び「使用可能湯量」の確認をおこなってください。（☞本編 65 ～ 66 ページ）お湯がたりなくなりそうなときは[タンク湯増し]を押してください。

(3) 1年に2～3回程度のお手入れ

漏電ブレーカーの動作確認

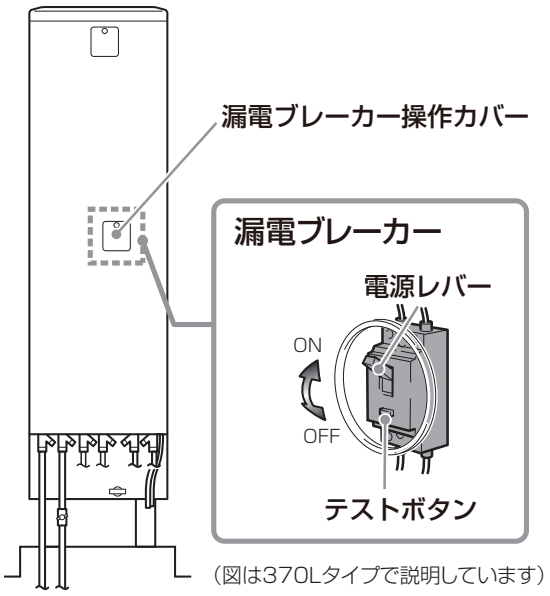
⚠警告

- **漏電ブレーカーの動作を確認する**
  故障のまま使用すると、感電することがあります。
- **漏電ブレーカーを操作するときは、ぬれた手でおこなわない**
  感電することがあります。

⚠注意

- **動作確認後、漏電ブレーカー操作カバーを閉じる**
  開けておくと雨水やゴミが入り、漏電や感電することがあります。

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

1 漏電ブレーカー操作カバーをはずし、漏電ブレーカーのテストボタンを押す

- 電源レバーが「ON」から「OFF」になれば正常です。

2 点検終了後、電源レバーを「ON」に戻し、操作カバーを元どおりに取り付ける

(5) 1年に2～3回程度のお手入れ

逃し弁の点検

⚠警告

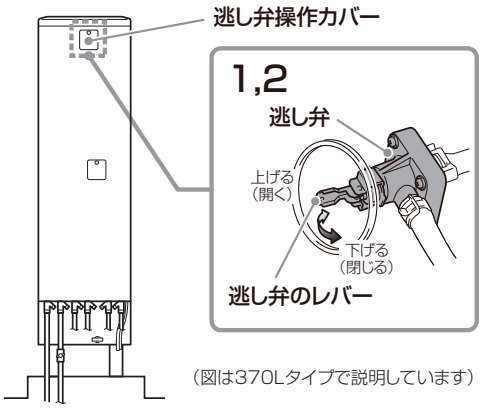
●逃し弁点検時は内部の配管に手を触れない
やけどをすることがあります。

⚠注意

●逃し弁の点検をする
正しく作動しないと貯湯ユニットや配管が破損したり、逃し弁から水漏れしたりすることがあります。

●点検後、逃し弁操作カバーを閉じる
開けたままにしておくと雨水やゴミが入り、漏電や感電することがあります。

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

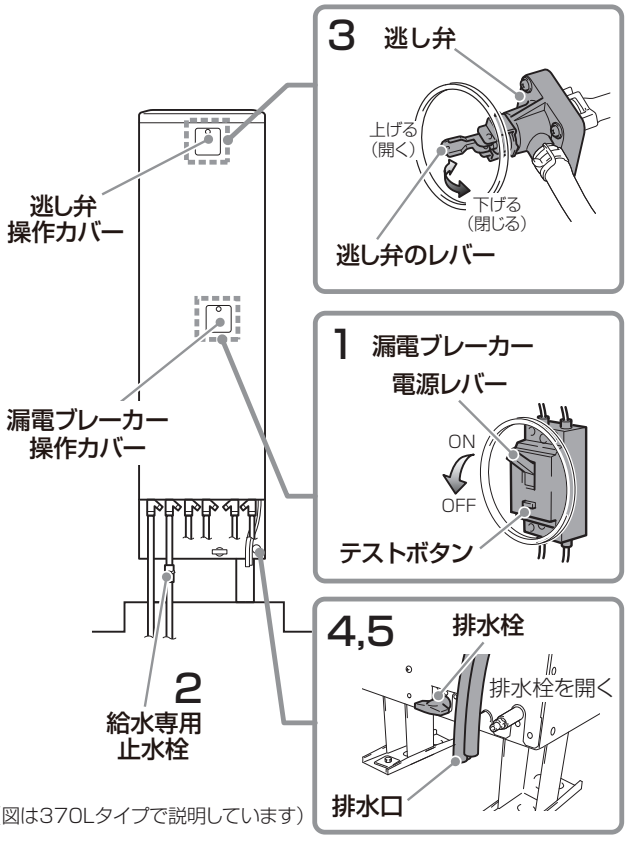
1 逃し弁操作カバーをはずし、逃し弁のレバーを2～3回上下に動かす

- 上げたときのみ、排水口から水（お湯）が出れば正常です。

2 点検終了後、逃し弁のレバーを下げ、操作カバーを元どおりに取り付ける

貯湯ユニット（タンク）のお手入れ

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

●貯湯ユニット（タンク）内の汚れなどを排水してください。

⚠警告

●排水時にはお湯に手を触れない
やけどをすることがあります。

●漏電ブレーカーを操作するときは、ぬれた手でおこなわない
感電することがあります。

1 漏電ブレーカー操作カバーをはずし、漏電ブレーカーの電源レバーを「OFF」にする

2 給水専用止水栓を閉じる

3 逃し弁操作カバーをはずし、逃し弁のレバーを上げる

4 排水栓を開き、貯湯ユニット内の水を排水する

5 1～2分間排水し、汚れがなくなったら排水栓を閉じる

6 お手入れ完了後「水抜き後、ご使用になるとき」の手順で作業をおこなう（☞本編 164 ページ）

エコキュート

● 家庭用ヒートポンプ給湯機を長くお使いいただくために、3 ～ 4 年に一度定期点検（有料）をおこなってください。

なお、給水用具（逆流防止装置）に関しては、（社）日本水道協会の給水用具の維持管理指針に示されている定期点検（有料）の実施をおすすめします。時期は 4 ～ 6 年に 1 度程度をおすすめします。

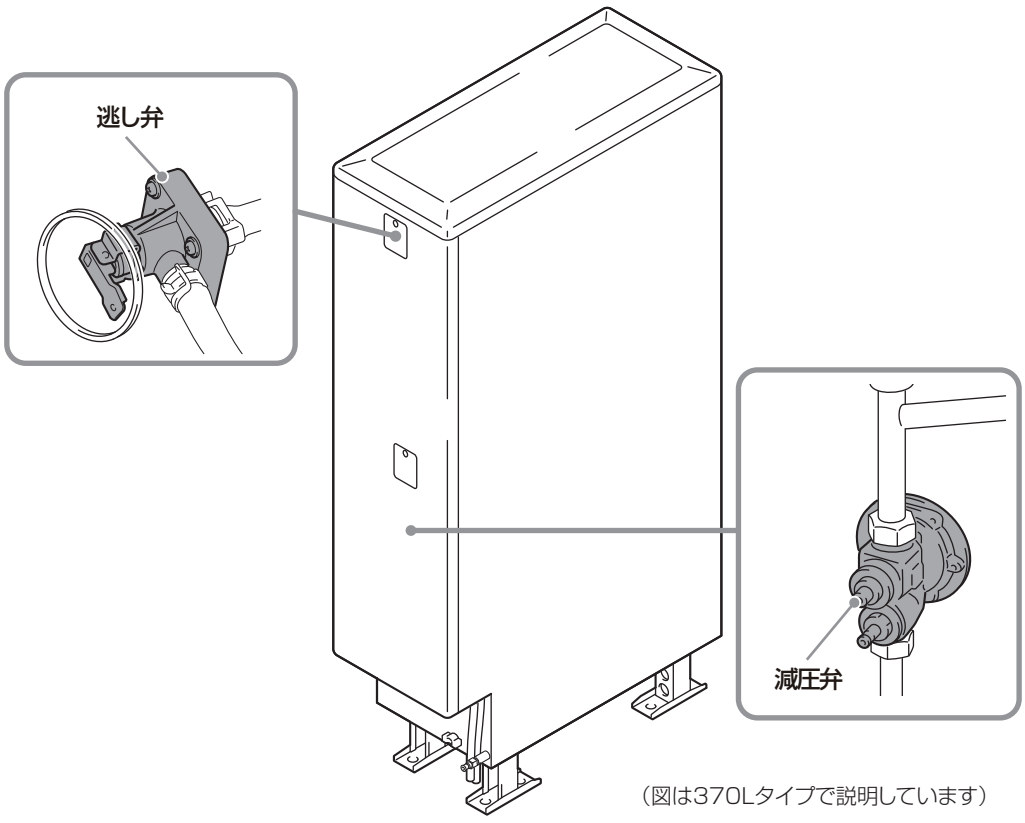
定期点検の主な内容

定期点検については、販売店にご相談ください。
点検の結果、部品交換が必要なものは、有料で交換します。

項　目	内　容
据付状態	設置面、配管状態、配管その他の保温処理、電気配線などの確認。
機能部品	電気部品（配線、導通、動作の確認）、弁類（逃し弁減圧弁）などの点検。
清　掃	貯湯ユニット内の清掃。（タンク内沈殿物の除去など）

消耗部品の交換

逃し弁、減圧弁は消耗品です。



（図は370Lタイプで説明しています）

水抜きをする（16 日間以上使用しないとき）

⚠警告

●排水時はお湯に手を触れない
やけどをすることがあります。

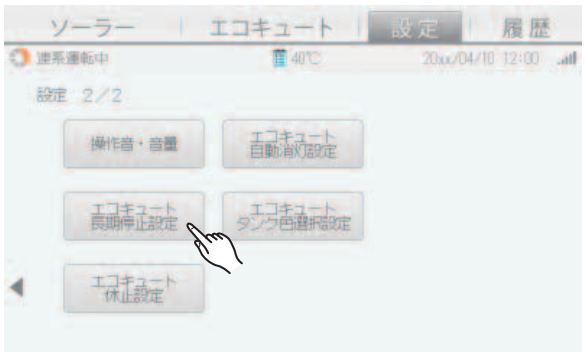
●貯湯ユニットの内部配管には手を触れない
やけどをすることがあります。

●漏電ブレーカーを操作するときは、ぬれた手でおこなわない
感電するおそれがあります。

⚠注意

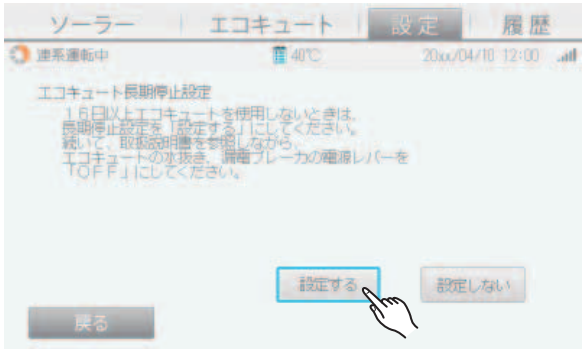
● 16 日間以上使用しないときは、漏電ブレーカーの電源レバーを「OFF」にして貯湯ユニットとヒートポンプユニットの排水をする
排水をしないと水質が変化することがあります。また、冬期は凍結して機器が破損することがあります。

●操作カバーを閉じる
開けたままにしておくと雨水やゴミが入り、漏電や感電することがあります。

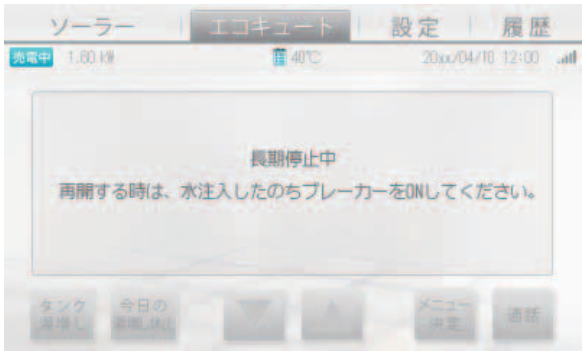


1 **設定のタブをタッチし、設定のトップ画面で▶をタッチして設定画面 2/2 へ移行し エコキュート長期停止設定 をタッチする**

エコキュート長期停止設定の画面が表示されます。



2 **設定する をタッチする**



3 **エコキュートのトップ画面に「長期停止中 再開する時は、水注入したのちブレーカーをONしてください。」と表示されます**

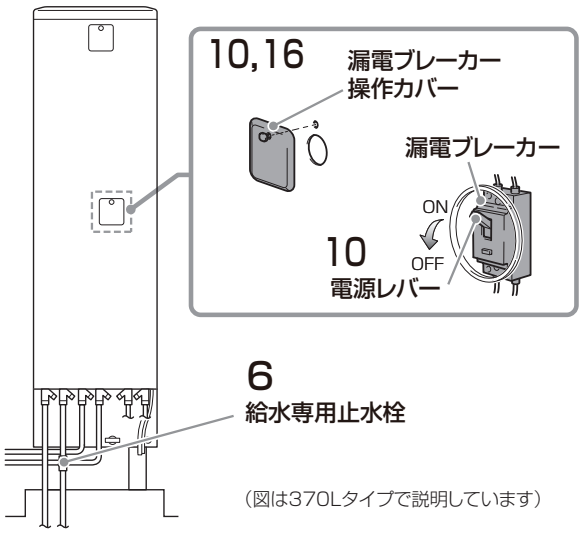
以下水抜き作業になります。（手順 4 へ）

エコキュート長期停止の設定をしたが、すぐに設定を解除するなど、ブレーカーを OFF にせずに解除する場合は再度手順 1、2 より「設定しない」をタッチしてください。

メモ

●お湯を使用しない期間が 15 日間以内の場合は、休止設定をおすすめします。（☞本編 160 ページ）

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

4 湯水混合栓を湯側全開にして、貯湯ユニット内をほぼ水の状態にする

5 お湯がぬるくなったら、湯水混合栓を閉じる

貯湯ユニットの熱湯を下水に流さないための必要な操作です。

6 給水専用止水栓を閉じる

7 おふろの排水栓を抜く

8 の操作をするとふろ配管の水抜きをします。

8 （ホーム）を 5 秒以上長押しする

ショートカット画面が表示されます。（☞本編 107 ページ）

9 「水抜き制御」をタッチする

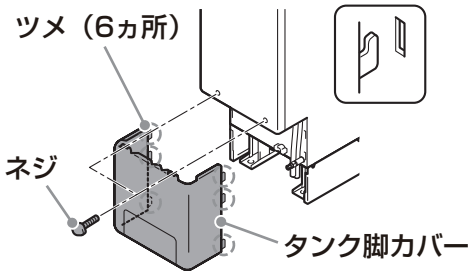
「水抜き中」が画面に表示されます。
「水抜き」をやめる場合は［メニュー 決定］をタッチする。

10 漏電ブレーカー操作カバーをはずし、漏電ブレーカーの電源レバーを「OFF」にする

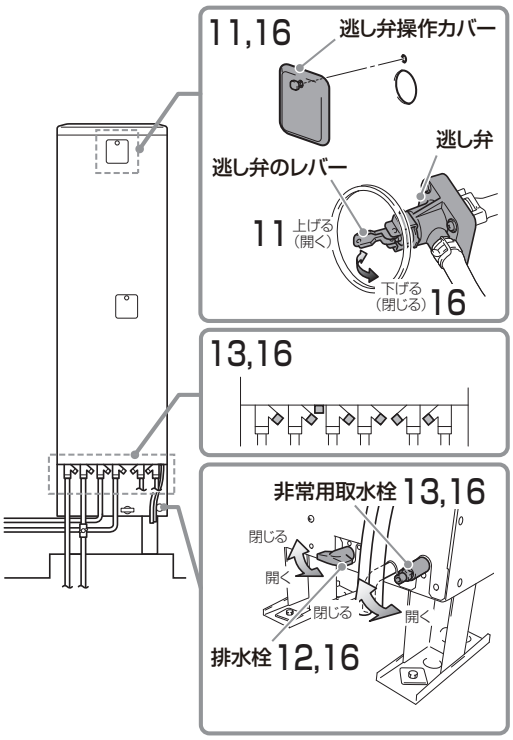
＜以下次のページに続く＞

別売部品のタンク脚カバーを装着している場合は、カバーをはずしてください。
（カバーの端面で手を切らないように注意してください。）

【はずし方】
（1）ネジ2本をはずす。
（2）カバーを下方へずらしてツメをはずし、手前に引く。

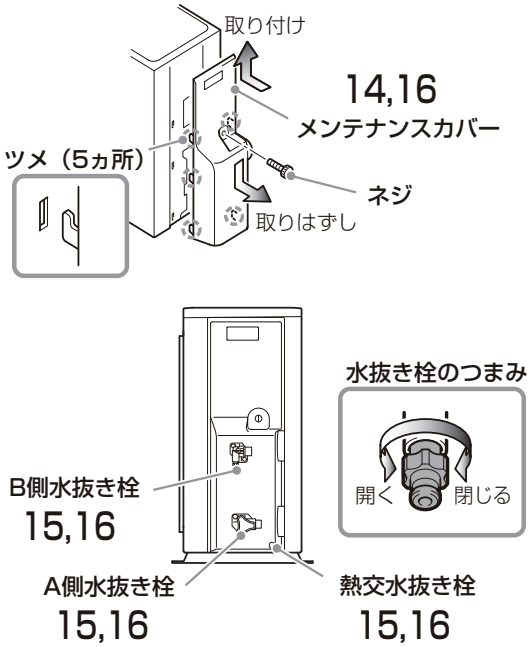


◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

◆ ヒートポンプユニット



11 逃し弁操作カバーをはずし、逃し弁のレバーを上げる

12 排水栓を開く

※ 排水が終わるまでに 30 ～ 40 分かかります。

13 排水が終わったら貯湯ユニットの水抜き栓（7 ヵ所）と非常用取水栓を開く

（必要な場合はバケツ等で水を受けてください。）

◆ ヒートポンプユニット

14 ヒートポンプユニットのメンテナンスカバーを止めているネジをはずし、下へスライドさせツメ（5 ヵ所）をはずしカバーを取りはずす

必要以上にスライドさせるとツメ部が破損するおそれがあります。

15 ヒートポンプユニットの熱交水抜き栓を開き、次に A 側および B 側の水抜き栓を開く

※ 排水が終わるまでに約 20 分かかります。

16 排水が終わったら、逃し弁のレバーを下げて、すべての栓と操作カバーおよびヒートポンプユニットのメンテナンスカバーを元どおりに戻す

お願い

●長期間お湯を使用しない間に、凍結のおそれがある場合で、水抜き作業が困難な場合は、お買い上げの販売店に依頼してください。

エコキュート　ー水抜き後、ご使用になるとき

水抜き後、ご使用になるときは、以下の作業を行ってください。

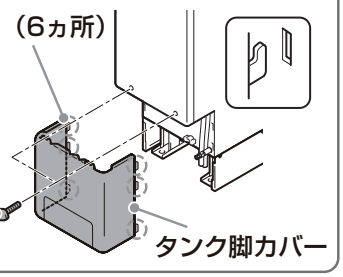
別売部品のタンク脚カバーを装着している場合は、カバーをはずしてください。

（カバーの端面で手を切らないよう注意してください。）

【はずし方】

(1)ネジ2本をはずす。

(2)カバーを下方へずらしてツメをはずし、手前に引く。



⚠警告

●漏電ブレーカーを操作するときは、ぬれた手でおこなわない

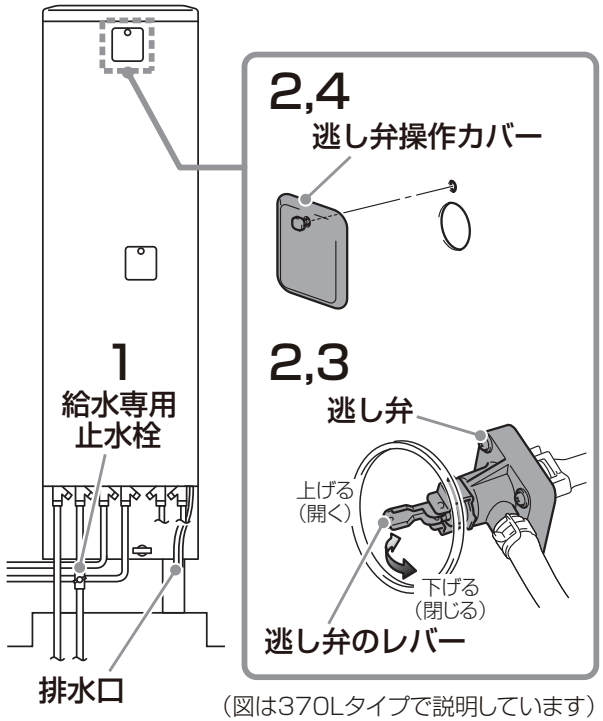
感電することがあります。

⚠注意

●貯湯ユニット・ヒートポンプユニットを満水にしてから電源を入れる

満水にしないで電源を入れると故障の原因になります。

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

貯湯ユニットとヒートポンプユニットを満水にする

1 給水専用止水栓を開く

2 逃し弁操作カバーをはずし、逃し弁のレバーを上げる

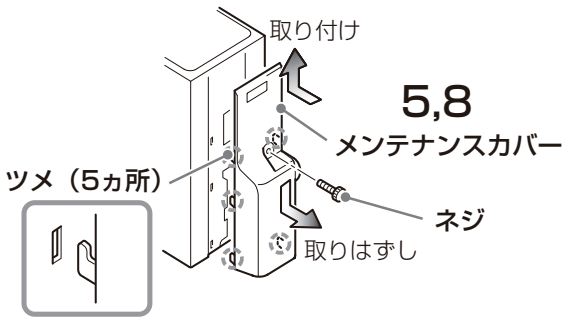
約 30 分で貯湯ユニットが満水になります。

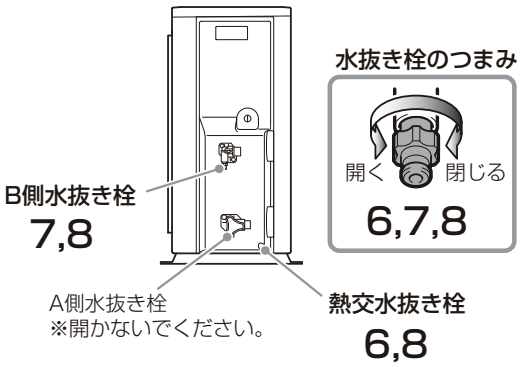
3 排水口から水が出たら逃し弁のレバーを下げる

4 逃し弁操作カバーを元どおりに取り付ける

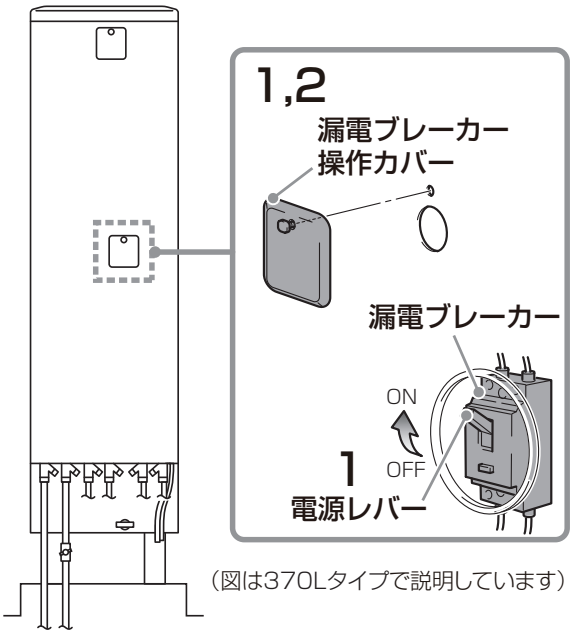
〈以下次ページに続く〉

◆ ヒートポンプユニット





◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

5 ヒートポンプユニットのメンテナンスカバーを止めているネジをはずし、下へスライドさせツメ（5 ヵ所）をはずしカバーを取りはずす

- 必要以上にスライドさせるとツメ部が破損するおそれがあります。

6 ヒートポンプユニットの熱交水抜き栓を開き、エア抜きをする

- 2 分以上、十分にエアが抜けるまでおこなってください。

7 ヒートポンプユニットの B 側水抜き栓を開き、エア抜きをする

- 十分なエア抜きをおこなってください。
- A 側水抜き栓は開かないでください。

8 エア抜きが終わったら水抜き栓（熱交、B 側）を閉じ、メンテナンスカバーを元どおりに取り付ける

電源を入れる

1 漏電ブレーカー操作カバーをはずし、漏電ブレーカーの電源レバーを「ON」にする

- ヒートポンプ配管のエア抜き運転を開始します。
  「ヒートポンプ エア抜き中」が表示されます。

※ 電源を「OFF」にしていた期間が 24 時間以内であれば、エア抜き運転はおこないません。

- 約 10 分でエア抜き運転が終了します。
- エア抜き運転が終了すると、ヒートポンプユニットが運転をはじめ、「湯増し」が表示されます。

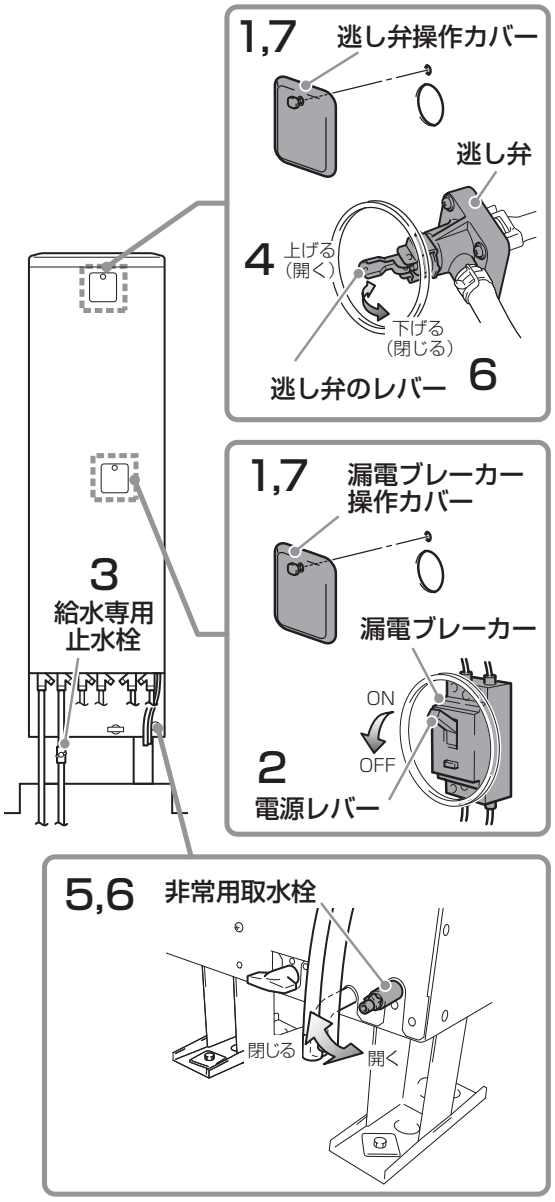
2 漏電ブレーカー操作カバーを元どおりに取り付ける

※マルチエネルギーモニタの時刻が間違っている場合は、時刻を合わせ（☞本編 94 ページ）、各種設定（給湯温度、ふろ温度）をしてください。

エコキュート　−非常用取水栓の使い方

地震などの災害時や断水時に、貯湯ユニットのお湯（水）を生活用水として使用することができます。

◆ 貯湯ユニット



（図は370Lタイプで説明しています）

⚠警告

●**取水時はお湯に手を触れない**
やけどをすることがあります。

●**漏電ブレーカーを操作するときは、ぬれた手でおこなわない**
感電することがあります。

⚠注意

●**飲用には用いないでください**
貯湯ユニットに滞留していた水なので、生活用水として使用してください。

※準備するもの
容器（やかん、バケツなど）

1 貯湯ユニットの操作カバー（逃し弁、漏電ブレーカー）をはずす

2 漏電ブレーカーの電源レバーを「OFF」にする

3 給水専用止水栓を閉じる

4 逃し弁のレバーを上げる

5 非常用取水栓を開き、容器に水を受ける

6 取水が終わったら、非常用取水栓を閉じ、逃し弁のレバーを下げる

7 操作カバー（逃し弁、漏電ブレーカー）を元どおりに取り付ける

お願い

●再びご使用になるときは「水抜き後、ご使用になるとき」（☞本編 164 ～ 165 ページ）の手順で作業をおこなってください。

エコキュートの仕様

[システム]

システム形式	WX-SB37FS	WX-SB46FS
タイプ	フルオート（一般地）	
適応地域　※1	次世代省エネ基準Ⅲ～Ⅴ地域	
適用電力制度　※2	季節別時間帯別電灯型／時間帯別電灯型（通電制御型）	
使用電源（相数／定格電圧／周波数）	単相 200V　50Hz ／ 60Hz	
最大電流	16A	18A
年間給湯保温効率（JIS）　※3	2.8	
沸き上げ温度範囲　※4	約 65 ～ 90℃	

[貯湯ユニット]

貯湯ユニット形式	WX-B37FS	WX-B46FS
設置場所	屋外型	
タンク容量	370L	460L
水側最高使用圧力（減圧弁設定圧力）	290kPa（260kPa）	
外形寸法（高さ×幅×奥行）	1890mm × 1090mm × 450mm	2225mm × 1090mm × 450mm
質量／満水時	約 85kg ／約 455kg	約 97kg ／約 557kg
ふろ保温消費電力（50kz ／ 60kz）	循環ポンプ 65W	
凍結防止ヒーター消費電力	30W（ただし冬期のみ作動）	
制御用消費電力	10 W（リモコン消灯時 5 W）	

[ヒートポンプユニット]

ヒートポンプユニット形式	WU-B37FH	WU-B46FH
外形寸法（高さ×幅×奥行）	650mm × 820mm（カバー部+ 80mm）× 300mm	
質量	49kg	51kg
中間期標準加熱能力／消費電力　※5	4.5kW ／ 1.025kW	6.0kW ／ 1.365kW
冬期高温加熱能力／消費電力　※6	4.5kW ／ 1.500kW	6.0kW ／ 2.000kW
中間期標準運転電流　※5	6.1A	7.3A
運転音（中間期　※5 ／冬期　※6）　※7	38dB ／ 43dB	40dB ／ 45dB
設置可能最低外気温度	− 10℃	
設計圧力　高圧／低圧	14.0MPa ／ 8.5MPa	
冷媒の種類／充填量	CO_2 ／ 0.825kg	CO_2 ／ 0.700kg

※1　次世代省エネルギー基準Ⅰ・Ⅱ地域：主に北海道、青森、秋田、岩手など（極寒地は除く）／次世代省エネルギー基準Ⅲ地域：主に宮城、山形、福島、栃木、新潟、長野県の一部など。／次世代省エネルギー基準Ⅳ地域：主に関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部など。／次世代省エネルギー基準Ⅴ地域：主に九州南部など。 また最低気温が対応温度を下回る地域には設置しないでください。

※2　季節別時間帯別の対応電力制度は、電力会社により異なります。

※3　年間給湯保温効率（JIS）は日本工業規格 JIS C9220：2011 に基づき、ヒートポンプ給湯機を運転した時の単位消費電力量あたりの給湯熱量及び保温熱量を表したものです。地域条件：運転モードの設定やご使用条件等により変わります。／年間給湯保温効率（JIS）＝ 1 年間で使用する給湯とふろ保温に係る熱量÷ 1 年間で必要な消費電力量／年間給湯保温効率（JIS）算出時の条件／着霜期高温条件：外気温（乾球温度／湿球温度）2℃／ 1℃水温 5℃沸き上げ温度 90℃／冬期給湯モード条件時の沸き上げ温度 70℃（460L タイプは 67℃）／着霜期給湯モード条件時の沸き上げ温度 70℃（460L タイプは 67℃）／夜間消費電力量比率（冬期給湯モード性能試験条件時）：80%

※4　ヒートポンプユニットで沸き上げる温度です。タンク内の湯温は配管の放熱などにより低くなります。

※5　中間期：外気温（乾球温度／湿球温度）16℃／ 12℃水温 17℃沸き上げ温度 65℃、沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。

※6　冬期高温：外気温（乾球温度／湿球温度）7℃／ 6℃水温 9℃沸き上げ温度 90℃、低外気温時は加熱能力が低下することがあります。沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。

※7　運転音は、JIS C9220：2011 に基づき、反響の少ない無響室で測定した数値です。実際に据え付けた状態で測定すると、周囲の騒音や反響を受け、表示数値より大きくなるのが普通です。

ーメモー

ーメモー

148017-8840[2013.02]
225WA3208-00